

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	乗用車販売店（従業員）	・自動車業界は2～3月と決算時期に入ってきているので、売上は上昇してくるが、前年と比べると落ち込みが大きくなると思われる。
	やや良くなる	その他専門店〔酒〕（経営者）	・私どもの業種は、年間を通じて今月が一番悪い月である。2～3か月先から少しずつ良くなっていく。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・売上のマイナス要因として、給料が低下するのではという不安や上手な買物ということがある。個人消費が少し増える可能性があるが、3か月先では、まだまだ景気の悪さは変わらない。
		百貨店（販売促進担当）	・フェアの開催や物産展の実施など計画しているが、引き続き近隣ショッピングセンターの影響がある。
		スーパー（企画担当）	・政局含めて好転の要素が少ないなかで、アメリカの景気が大統領交代、政策転換でどれだけ動かにかかっている。
		衣料品専門店（経営者）	・選挙が済まなければ良くはならない。
		家電量販店（営業担当）	・2～3月は販売量を上げる要因に乏しいため、回復には時間が掛かる。入学、新社会人については期待薄で、引越しの需要に期待したい。
		一般レストラン（経営者）	・どのテレビでも全世界が不景気で、大企業の決算は大赤字と、関心のない人でもこれからどうなるのかと心配になる。国がリーダーシップをとって、次々と景気浮揚策を実行し、「しばらくの我慢」と言えば少しはましだと思ふ。
		旅行代理店（従業員）	・景気の回復は容易でなく、企業のコスト削減の動きは今後も続く。個人旅行の動きも今ひとつ低調である。春先に掛けての社内旅行、視察旅行等の団体旅行の相談も例年よりは少なく抑えられている。
		タクシー運転手	・1～3月は、決算月及び車の税金、固定資産税などがあって金の入り用が多いため、夜の街・昼のタクシーの利用は少ない。
		タクシー運転手	・春が来て、四国八十八箇所のお遍路の仕事も始まるが、相当減りそうな状況であり厳しい。
		通信会社（支店長）	・ここ4か月間、月を追うごとに個人消費の低迷、また円高による欧米からの受注の落ち込みなど、あらゆる企業に影響が出ている。
	通信会社（管理担当）	・新端末販売開始による新規需要増が想定される一方で、買替需要の長期化が懸念されるため全体的な販売量については、現状と大きな変化はない。	
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・12月の空き店舗率は、商店街、特に中心商店街で大きく伸びている。年末、年明けの閉店もあり、ここに来てシャッターを閉める店が多くなっている。それに対する新規出店には時間が掛かるので、当面は厳しい状況が続く。
一般小売店〔酒類〕（経営者）		・景気が上向き要素が思い当たらない上に、景気の悪い報道も多く、外食する気分になりにくい雰囲気が一層強まる。	
スーパー（店長）		・競合店との競争で、更に価格が下がる傾向が続く。	
スーパー（統括担当）		・年明け以降、消費者の買上の量が大きく減ってきている。年未年始の出費分をセーブしている。将来に対する不安は今後も続くので、景気は悪くなっていく。	
コンビニ（総務）		・今後、より一層の買い控えが予想され、客単価の低下や来店数減少へと波及する。	
衣料品専門店（経営者）		・フリー客の来店減少、既存顧客の来店頻度の低下、1点買い主流で販売数量の減少、客単価の低下とマイナス傾向が一段と顕在化しており、売上高のマイナスに対して打つべき有効な手立てが見つからない状態である。	
家電量販店（店長）		・2011年にアナログからデジタルへの切り替えがあるが、それにはまだ期間があり、現在、全体を牽引する商品がない。来年まで少し苦しい状況が続く。	
一般レストラン（経営者）		・為替変動などで今後単価は昨年の値上げ基調から値下げに転じると予想されるが、時期はまだ後になる。単価が下がっても販売数の増加は見込めず、それが売上高に影響する。単価が下がると単品あたりの利益も少なくなるので、メーカー、小売共にかなり厳しくなる。	
タクシー運転手		・社会全体の景気が悪くて期待はできない。今後も消費が増加するとは思えない。	
観光名所（経営者）		・マスコミによる景気悪化の過剰な報道が、客の消費マインドを一層低下させている。好転は望めない。	

悪くなる	商店街（代表者）	・ 全般的に景気が悪化しているなかで、商店街の通行量も20%減っている。売上については、それ以上である。今後もこの傾向が続くと思う。	
	商店街（代表者）	・ 選挙で与野党が逆転しても、政局の混乱はまだ続く。期末決算数字で実体経済が明らかになり、次年度更に厳しい数字が出て、消費マインドは大きく落ち込む。	
	百貨店（営業担当）	・ 催事商品の動きは見られるが、来店数の減少が続き、通常商品の動きが落ちて購入単価が低下している。催事会場にはぎわいが見られるが全体に波及しない。	
	百貨店（売場担当）	・ 春闘が始まり主要各社の決算内容が発表されるが、明るい見通しの企業は少なく、賞与・給与の低下が予想され、消費者は購買行動をはじめとして生活防衛意識が高まり、景気は減退する。	
	スーパー（店長）	・ 世界的な景気の悪化が本県にもきた。製造業の人員削減が進んでいる。このままいくと、消費にもかなり大きな影響が出て、更に悪化していく。	
	スーパー（店長）	・ 昨年は不況下の物価高（スタグフレーション）であったが、今年は単価が下落している。メーカーも売れないので、値段を下げてきており、それに合わせて単価も低下していく。今後もこの傾向が続き、今年は大不況になる。	
	スーパー（店長）	・ 製造業、輸出産業のリストラの影響が、どんどん拡大していく。	
	スーパー（財務担当）	・ あまりにもマスコミがシンボリックにトップ企業の赤字と雇用についてあおり過ぎる。段々と生活防衛のための行動に移行しつつある。今後、消費が急速に冷え込む可能性があり、春闘、夏のボーナスでの実感が今年の景気を決定づける。	
	コンビニ（エリア担当）	・ コンビニの店頭では様々な業種の人が買物をするが、今後、賃金または雇用に関して、どんどん悪いところが出てくる。1年先ぐらいまでは、すべてが悪循環となっていくのではないかと感じている。	
	衣料品専門店（経営者）	・ 各メディアが不景気だと連日報道しており、今後も買い控えがある。	
	乗用車販売店（従業員）	・ ガソリン小売価格の変動が影響するかどうかの問題ではなく、根本的に不景気が全てを悪くしている。	
	乗用車販売店（営業担当）	・ 2～3月は自動車の最需要期だが期待できない。2～3か月間はこの厳しい状況が続きそうである。	
	乗用車販売店（管理担当）	・ 車検の客も、安価なところへ入庫している様子で、新車購入の商談も激減状態である。今後も厳しい状況が続く。	
	住関連専門店（経営者）	・ 販売量が昨年より、かなり落ちており、その状態が続く。	
	観光型旅館（経営者）	・ 2～4月の予約状況は昨年に比べ、3割ぐらい下落している。旅行についても、物の買い控えと同じように予約して旅行を決めるという状況にない。この先、非常に悪くなる。	
	都市型ホテル（経営者）	・ 今の予約状況が非常に悪い。新聞・テレビ、マスコミ等で毎日景気が悪いと報道され、消費者の消費に対する心理が非常に冷めてきている状況である。これは、なかなか回復しないだろうというのが現況である。	
	観光名所（職員）	・ 社会情勢がかなり厳しく、失業者もかなり増えてきている。景気はもっと悪くなる。	
	ゴルフ場（従業員）	・ 2～3か月後はシーズンにはなるが、景気が非常に悪いことから、全体的に更に悪くなる。	
	美容室（経営者）	・ 完全に景気の停滞期で、先行きの見込みがまったくない。	
	設計事務所（所長）	・ 大手や地元のマンション業者の倒産によって、地元の建設業者のなかで影響を受けている先が多くある。非常に不況感が強くなっている。	
設計事務所（職員）	・ 次年度にも仕事量は増える見込みはない。企業努力で経費節減も限界に近い。リストラの必要性に迫られている。		
企業 動向 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	食料品製造業（従業員）	・ 春の新品を出しているため、その部分の売上が上昇する。
	変わらない	電気機械器具製造業（経営者）	・ 受注量の増加の兆しがみられない。
		通信業（営業担当）	・ 景気が上向きには、国、政府、経済界が本気になって取り組まないと難しい。個人消費の回復にはまだまだ時間が掛かる。今後2～3か月で景気が上向きになると思えない。
	通信業（部長）	・ ここ数か月の前月比の販売動向は減少しているものの減少幅は小さくなってきている。経済状況に新たな事象が生じなければ悪くなり底ばいの動きになる。	

やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・消費不況と併せて金融機関の融資状況も悪化しており、店舗縮小や廃業も見られる。明るい材料が見られず、まだまだ状況は厳しくなる。	
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・販売価格は下げざるを得ないが、受注量が急速に落ち込んできている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・設備業をしているが、受注残は3月末になくなる。4月以降も今ある商談が、かなり金額を抑えられての受注になると予測をしている。いろいろな形で前向きに新しいことをしようという動きが出てきているので、極端に悪くなることはない。	
	不動産業（経営者）	・今年に入って地元の著名な企業が倒産した。そうしたことで、我々の取引先や客も不動産に関して非常に慎重になってきている。今後の状況次第で、更に冷え込む状況にある。	
	広告代理店（経営者）	・特定顧客からは、それなりの受注量を確保しているが、大多数の顧客からの受注は減少している。	
	広告代理店（経営者）	・急激に得意先から広告費削減依頼が増えており、特に来期4月以降は新聞・テレビ広告等のマスメディアレギュラー契約の削減等見直し計画が増えてきている。	
悪くなる	木材木製品製造業（経営者）	・これからもまだまだ破産、倒産、民事再生が続く。	
	鉄鋼業（総務・人事統括）	・取引先、近隣の会社も新卒採用活動を停止するとともに、製造ラインの停止や社員の帰休等に伴う助成金の申請手続きにまで及んでいる。非正規雇用の整理や諸手当等賃金制度の見直しにも取り組んでいると推察され、個人所得の低下・消費の落ち込みへとつながっていく。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	・今は物を買う時期ではないとの雰囲気が漂っており、価格を安くして売れる状態ではなく、回復には相当の時間が必要である。	
	建設業（総務担当）	・マンション業者、不動産業者、建設業者への銀行の融資姿勢が一段と厳しくなり、このままでは更に倒産が増えるのではないかと懸念している。	
	輸送業（社員）	・11月以降、製紙業種や自動車関連業種の操業停止や減産体制が継続されており、停止期間や減産数量が増加傾向にある。また、円高による輸出関連業務も減少しており、半年並みに回復する目途が立たない状況で推移している。	
	輸送業（支店長）	・業界が望む燃料価格までは下がっていないが、顧客からは運賃料金の値下げ要請がある。しばらくはその対応に苦慮しそうである。	
	公認会計士	・関与先の70人ほどの社長との話では、最近、非常に大型の倒産が多く、その影響がどう出るのか、また銀行がどこまで応援してくれるのかという不安が入り混じって、将来的に對して不安を持っている。	
雇用 関連	良くなる	-	
	やや良くなる	-	
やや悪くなる	変わらない	学校〔大学〕（就職担当）	・大学に送られてくる求人数（求人件数）が減少し、低いまま推移している。10月160人（24件）、11月77人（14件）、12月25人（26件）、1月48人（16件）である。今後もこうした動きが続くと思われる。
	やや悪くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・製造業系の求人は急激に悪化も良化もしない。しかし、「悪い時もある。次の良い波が全く想像できない。」と発言する経営者が多く、先行きが読めない。
		求人情報誌製作会社（従業員） 職業安定所（職員）	・不景気のため、人員確保よりも人員削減を考えている企業が増加しており、求人掲載数の増加が見込めない。 ・雇用調整助成金と特に休業・教育訓練の相談が増加している。これからも増えていくと思われる。
悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）	職業安定所（職員）	・補正予算の執行による効果を期待したいが、社会全体で雇用不安を抱える現状では消費抑制、生活防衛に動くのは明らかである。 ・製造業の人員整理や派遣の中途解除、大手スーパーの閉店など、大量離職届が複数出ている。さらに対象者は派遣やパートから正社員へと拡大している傾向がみられる。
		民間職業紹介機関（所長）	・業種を問わず自分の勤務している会社に対する先行き不安を抱いている社員が増えており、現職での登録が1～2か月の間に増えている。求人数は減っているが、登録人数は昨年を上回っており、今後も増えると思われる。